

平成 29 年 度

愛媛大学大学院教育学研究科
学生募集要項

(教職大学院)

(修 士 課 程)

◇ 9月募集

教育実践高度化専攻 (教職大学院)
特別支援教育専攻・教科教育専攻・学校臨床心理専攻 (修士課程)

出 願 期 間	平成28年 8 月 1 日(月) ~ 平成28年 8 月 5 日(金)
試 験 日	平成28年 9 月12日(月)
合 格 発 表	平成28年 9 月21日(水)

◇ 11月募集

教育実践高度化専攻 (教職大学院)

出 願 期 間	平成28年10月17日(月) ~ 平成28年10月21日(金)
試 験 日	平成28年11月20日(日)
合 格 発 表	平成28年12月 2 日(金)

愛媛大学大学院教育学研究科

〒790-8577 松山市文京町3番
電 話 089-927-9377

目 次

1	人材養成の目的とアドミッション・ポリシー	1
2	募集人員	3
3	出願資格	4
(1)	一般選抜	4
(2)	現職教員等特別選抜	5
(3)	外国人特別選抜	5
4	出願期間及び出願書類等	7
(1)	出願期間	7
(2)	出願書類等	7
(3)	出願書類等提出先	9
(4)	検定料の返還	9
5	選抜方法	9
(1)	試験日	9
(2)	試験場	9
(3)	学力試験科目及び試験時間	9
(4)	特別選抜	13
6	配点、採点・評価基準、合否判定基準	14
(1)	配点	14
(2)	採点・評価基準	17
(3)	合否判定基準	18
7	障がい等を有する入学志願者の事前相談	19
8	合格者発表	19
9	長期履修学生制度について	19
10	入学科及び授業料等	20
11	教育方法の特例措置	21
12	個人情報の取扱い	22
13	募集要項の請求方法等	22
14	成績の開示	22
15	教育学研究科案内	23

長期履修学生制度について

本研究科では、平成27年度入学生から導入しています。
詳細は、19ページをご覧ください。

1 人材養成の目的とアドミッション・ポリシー

愛媛大学大学院教育学研究科は、教育に関する理論および応用を教授研究し、高度な実践的指導力を備えた教員の養成を行うとともに、教育文化の発展に寄与していくことを目的としています。

教育学研究科は、教育実践高度化専攻、特別支援教育専攻、教科教育専攻、学校臨床心理専攻から構成され、さらにそれぞれの専修・コースに分かれています。教育学研究科の教育理念・目的を達成するために、人間、教育、言語、文化に深い関心を持ち、以下のような各専攻・専修・コースの教育に対応した能力をもって社会に貢献しようとする積極的な意欲をもつ人を求めています。

【教育学研究科のアドミッション・ポリシー】

1. 教育及び専門領域の内容について、学士課程卒業相当の知識、実技能力及び研究方法を身につけている。(知識・理解、技能)
2. 教育をめぐる現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を体系的総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。(思考・判断・表現)
3. 学校等に対する社会のニーズを踏まえ、自己の学習課題・研究課題を明確に意識し、教師として主体的にそれらに取り組もうとする意欲を有し、自主的に社会に貢献しようとする。(関心・意欲・態度)

【各専攻のアドミッション・ポリシー】

◆教育実践高度化専攻（教職大学院）

教育実践高度化専攻には、リーダーシップ開発コース、教育実践開発コースの2コースがあります。

リーダーシップ開発コースは、学校・地域を取り巻く複雑な諸問題の解決を図り、児童生徒の確かな成長を、効果的な職員間の協働体制（組織力）と、学校・家庭・地域の連携体制及び相互信頼醸成（信頼構築）を通して保障する「リーダーシップ」を有する学校管理職の育成を目的としています。学校管理職を目指す主任職経験等を有する現職教員を対象とし、学校経営の立場から教育に貢献する意思を持つ人を求めています。

教育実践開発コースは、学級・学年・学校を取り巻く複雑かつ多様な諸問題の解決を図り、児童生徒の確かな成長のための高度な「実践的指導力」を育成します。現職教員においては、ミドルリーダーとして様々な問題を組織的に解決し、また、個々の授業力を学校全体で組織として高める「組織力」を醸成できる教員の育成を目的としています。教員免許状を有している学部新卒者、臨時的任用教員、10年から20年程度の教職経験を有する現職教員を対象とし、将来学校現場の中核として活躍する意欲を有する人を求めています。

◆特別支援教育専攻

特別支援教育専攻には、特別支援学校教育専修、特別支援教育コーディネーター専修の2つの専修があります。

特別支援学校教育専修は、特別支援教育、障害児・者福祉、保健医療福祉の現実的諸問題に適切に対応できる実践的技能をもった教員、臨床家の育成を目的としています。そのた

め、教育や心理、保健医療福祉に関する基礎知識を有し、特別支援教育に関する諸問題を多角的な視点から分析・解釈し、問題解決に向けて柔軟に対応できる人を求めています。

特別支援教育コーディネーター専修は、幼稚園、小・中学校、高等学校の通常の学級に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症などの特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に対応する特別支援教育コーディネーターの育成を目的としています。教育・心理・医学に関する専門的知識を学習するとともに、実習を通して教育現場の現実的諸問題に対応する柔軟な実践力を養います。そのため、特別支援教育に携わる教員・実践家、特別支援教育の諸問題について探求したい人を求めています。

◆教科教育専攻

教科教育専攻は、人文社会科学コース、自然科学コース、生活健康科学コース、芸術コースの4コースがあります。いずれのコースも、多様な形態の授業によって各自の問題意識を深めることで教育実践の場において教育研究の推進者となりうる教科指導に関する高度な実践力のある指導者の育成を目的としています。さらに、教科のみならず、道徳教育、特別活動、総合的な学習等の（教科外活動における）専門的知識を有する、総合的な実践力の育成を目指しています。これまでの活動経験に基づいた専門分野への理解と関心をもち、教育実践の場で活躍したいという意欲を持っている人、教育現場での問題を解決するための実践的研究能力を高めたい人を求めています。

◆学校臨床心理専攻

学校臨床心理専攻には、学校臨床学コース、臨床心理学コースの2つのコースがあります。

学校臨床学コースは、学校等における教育の臨床的な諸問題に対し、教育における人間性育成の観点から、教育や心理発達に関する高度な知識を身につけ、現実の諸課題に対する課題解決能力を養うことを目的としています。学部卒業者で教育についての知見を深め同時に教師としての実践力の向上を図ろうとする人、現職教員を含む社会人で教育や心理発達について学び直しを行おうとする人を求めています。

臨床心理学コースは、家庭、学校、職場など様々な領域で増大しているコミュニティ・人間関係・個人の諸問題について、臨床心理学の立場から、その要因やメカニズムを理論的に明らかにし、支援実践力を培うことを目的としています。援助を必要とする人々の心の世界とそれを取り巻く社会的状況に関与し、将来、「こころ」の専門家である臨床心理士になることを目指して学ぼうとする人を求めています。

2 募集人員

専攻	専修・コース	領域	分野	募集人員		
教育実践高度化 (教職大学院)	リーダーシップ開発コース			5人		
	教育実践開発コース			10人		
特別支援教育	特別支援学校教育専修		S S E 教育学 S S E 心理学 S S E 医学	5人(1)		
	特別支援教育 コーディネーター専修			6人		
教科教育	人文社会科学コース	国語教育	国語科教育学 国語文学 国語文文学 漢文書道教育	20人(2)		
		社会科教育	社会科教育学 歴史地理学 地方法理学 経済社会学 哲学・倫理学			
		英語教育	英語科教育学 英米文学			
	自然科学コース	数学教育	数学科教育学 代数幾何学			
		理科教育	理科教育学 物理化学 生物			
		技術教育	技術科教育学 電気機械情報			
	生活健康科学コース	保健体育	保健体育科教育学 体育運動学 学校保健			
		家政教育	家庭科教育学 食生活学 被服居生活学			
	芸術コース	音楽教育	音楽科教育学 音楽学 音楽デザイン			
		美術教育	美術科教育学 絵画・デザイン 彫刻・工芸 美術理論・美術史			
	学校臨床心理	学校臨床学コース				3人
		臨床心理学コース				6人
計				55人(3)		

※()は、外国人留学生の募集人員を内数で示します。

※教育実践高度化専攻の募集人員は9月募集、11月募集の合計人数です。

(注1) 現職教員等(本募集要項5ページ「(2)現職教員等特別選抜」参照)の募集人員として、教育実践高度化専攻(教職大学院)のリーダーシップ開発コースは募集人員5人、教育実践開発コースは若干名の枠を設けます。

その他の専攻については3専攻の募集人員(40人)の3分の1程度の枠を設けます。

(注2) S S E (Special Support Education) : 特別支援教育

(注3) 特別支援教育コーディネーター専修は1年制の課程です。詳細は24ページを参照してください。

3 出願資格

(1) 一般選抜

次の①から⑭までのいずれかに該当する者とします。

なお、教育実践高度化専攻（教職大学院）は、教育実践開発コースのみ一般選抜を実施し、出願資格は①から⑭までのいずれかに該当し、かつ教育職員免許法による幼稚園、小学校、中学校、若しくは高等学校教諭の一種免許状を有する者（平成29年3月までに取得見込みの者を含む。）とします。

- ① 大学を卒業した者及び平成29年3月までに卒業見込みの者
- ② 学校教育法第104条4項の規定により大学改革支援・学位授与機構又は大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び平成29年3月までに授与される見込みの者
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年3月までに修了見込みの者
- ④ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年3月までに修了見込みの者
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成29年3月までに修了見込みの者
- ⑥ 外国の大学その他の外国の大学（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずる者として文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- ⑦ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成29年3月までに修了見込みの者
- ⑧ 文部科学大臣の指定した者〔昭和28年文部省告示第5号〕（注1参照）
- ⑨ 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学院に入学した者であって、当該者をその後本学大学院に入学させる場合において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると本学大学院が認めたもの（注2参照）
- ⑩ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成29年3月までに22歳に達するもの（注2参照）
- ⑪ 平成29年3月において、大学に3年以上在学し、本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めた者（注2参照）
- ⑫ 平成29年3月において、外国において学校教育における15年の課程を修了した者で、本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの（注2参照）
- ⑬ 平成29年3月において、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者で、本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの（注2参照）
- ⑭ 平成29年3月において、我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該

外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの（注2参照）

(注1) 昭和28年2月7日文部省告示第5号

「教育職員免許法による小学校、中学校、高等学校若しくは幼稚園の教諭若しくは養護教諭の専修免許状又は1種免許状を有する者で、平成29年3月31日までに22歳に達するもの」など

(注2) これにより出願しようとする場合は、事前に審査を行う必要がありますので、9月募集は平成28年7月8日(金)、11月募集は平成28年8月31日(水)までに教育学生支援部教育支援課教育学部チームに問い合わせてください。

(2) 現職教員等特別選抜

ア 教育実践高度化専攻（教職大学院）

(a) リーダーシップ開発コース

前頁(1) 一般選抜の①から⑭のいずれかの出願資格を有し、かつ下記の①及び②に該当する者とします。

(b) 教育実践開発コース

前頁(1) 一般選抜の①から⑭のいずれかの出願資格を有し、かつ下記の①に該当する者とします。

① 幼稚園、小学校、中学校、高等学校（中等教育学校を含む。以下同じ。）、特別支援学校、教育関係諸機関に正規職員として10年以上勤務している教員及び連携協力による派遣職員

② 学校管理職を目指す主任職経験等を有する現職教員

イ 特別支援教育専攻・教科教育専攻・学校臨床心理専攻

前項(1) 一般選抜の①から⑭のいずれかの出願資格を有し、かつ以下のいずれかに該当する者とします。

① 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、教育関係諸機関に正規職員として3年以上勤務している教員及び連携協力による派遣職員

② ①の教育機関において正規職員（教員）として通算20年以上の勤務経験がある者で、既に退職している者、あるいは入学時までに退職予定の者（以下、「20年以上の勤務経験がある退職教員」という。）

※ ②については学校臨床心理専攻を除く。

なお、特別支援教育コーディネーター専修志願者は、上記①②のほか、以下に該当する者とします。

- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に在職する教職員
- ・その他、特別支援教育に関連する教育、福祉、医療等の機関に在職する職員で、本研究科が適当と認めた者

(3) 外国人特別選抜

日本の国籍を有しない者で、次のいずれかの条件を満たしているものとします。

- ・大学を卒業した者及び平成29年3月までに卒業見込みの者

- 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成29年3月までに修了見込みの者
- 外国において、学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認めた者
- 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成29年3月までに22歳に達するもの

注) 外国人特別選抜により出願しようとする場合は、出願の前に、あらかじめ出願書類等提出先（本募集要項9ページ）に申し出てください。

4 出願期間及び出願書類等

(1) 出願期間

- 9月募集（教育実践高度化専攻，特別支援教育専攻，教科教育専攻，学校臨床心理専攻）
 平成28年8月1日(月)から平成28年8月5日(金)まで（8月5日(金)必着）
 11月募集（教育実践高度化専攻）
 平成28年10月17日(月)から平成28年10月21日(金)まで（10月21日(金)必着）
 持参する場合の受付時間は，午前9時から午後5時までとします。

(2) 出願書類等

書 類 等	摘 要	提出該当者
入 学 願 書	本研究科所定の用紙に必要事項を記入したもの(注:備考④参照)	全 員
受 験 票 ・ 写 真 票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入したもの	全 員
写 真	上半身・無帽，正面向きで3か月以内に撮影したものを受験票・写真票の写真欄に貼ってください。(縦4cm×横3cm白黒又はカラー)	全 員
卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書	出身大学長又は学部長が作成したもの	全 員
学 位 授 与 証 明 書	大学評価・学位授与機構が作成したもの又は短期大学長，高等専門学校長の作成した，大学評価・学位授与機構へ平成28年10月に学士の学位を申請した(予定である)旨の証明書	出願資格②該当者
教育職員免許状授与証明書又は教育職員免許状の写し	免許状を授与した都道府県教育委員会が作成したもの又は所属長が原本証明したもの	出願資格⑧該当者及び教育実践高度化専攻(教職大学院)教育実践開発コース志願者で教育職員免許状を取得している者
教育職員免許状取得見込証明書	出身大学長又は学部長が作成したもの	教育実践高度化専攻(教職大学院)教育実践開発コース志願者で教育職員免許状取得見込みの者
成 績 証 明 書	出身大学長又は学部長が作成し厳封したもの	全 員
研 究 計 画 書	本研究科所定の用紙に必要事項を記入したもの	全 員 (教育実践高度化専攻(教職大学院)・特別支援教育コーディネーター専修志願者を除く)
教育実践研究計画書	本研究科所定の用紙に必要事項を記入したもの	特別支援教育コーディネーター専修志願者
課 題 レ ポ ー ト	任意の用紙(A4，課題a・bそれぞれ1,000字程度。手書き，ワープロいずれも可。)(詳細は12ページ参照)	教育実践高度化専攻(教職大学院)志願者
推 薦 書	本研究科所定の用紙により，所属長が作成したもの	現職教員等特別選抜志願者(20年以上の勤務経験がある退職教員を除く)
研 究 業 績 書 及 び 研 究 報 告 等	学力試験科目の代替を希望する者は，本研究科所定の様式により研究業績書を提出してください。その際，専門分野又は教育実践に係る学術論文又は研究報告等(名前が確認できるもの)2点の原本又は写しを添付してください。	現職教員等特別選抜志願者(教育実践高度化専攻(教職大学院)・特別支援教育コーディネーター専修志願者及び20年以上の勤務経験がある退職教員を除く)
	専門科目の代替を希望する者は，本研究科所定の用紙により研究業績書及び研究報告等(名前が確認できるもの)1点の原本又は写しを提出してください。	外国人特別選抜志願者

書 類 等	摘 要	提出該当者
教育実践・研究報告書	本研究科所定の用紙により、在職校（機関）における教育実践報告書を提出してください。また、教育実践に係る学術論文又は研究報告を有する者は、その原本又は写し2点以内を添付してください。	現職教員等特別選抜特別支援教育コーディネーター専修志願者
志望理由・自己推薦書	本研究科所定の用紙に必要事項を記入したもの	20年以上の勤務経験がある退職教員
教育業績書	本研究科所定の用紙により教育業績書を提出してください。また、教育実践に係る学術論文または研究報告を有する者は、その原本又は写し2点以内を添付してください。	20年以上の勤務経験がある退職教員（特別支援教育コーディネーター専修志願者を除く）
選択科目試験実技検査票	選択科目試験について本研究科所定の用紙に必要事項を記入したもの	
音楽科教育に関する研究レポート	選択科目を「音楽科教育」で受験しようとする者は、テーマは音楽科教育に関する任意のものとします。すでに発表された論文等がある場合はその写しでも構いません。	音楽教育領域志願者（20年以上の勤務経験がある退職教員を除く）（摘要参照）
自作品の楽譜または演奏記	選択科目を「音楽デザイン」で受験しようとする者は、任意の編成による自作品の楽譜（写しも可）またはその演奏を記録した媒体（CD・DVD・BDのうちどれか）を提出してください。編曲作品も可としますが、この場合は、原曲がわかる資料を添付してください。	
作品研究レポート等	選択科目を「美術科教育」以外で受験する者は作品又は美術に関する研究レポート等を提出してください。なお、作品は口述試験の際に持参することとします。（詳細は11ページ美術教育の専門科目及び12ページ「作品等提出要領」参照）	美術教育領域志願者（20年以上の勤務経験がある退職教員を除く）（摘要参照）
住民票の写し	市区町村長の発行したもの	日本に在住する外国人
検定料払込証明書	検定料30,000円を最寄の郵便局又はゆうちょ銀行の窓口（他の金融機関からの振り込みはできません。）から払込後（ATMは使用しないでください。）、日附印を押した「振替払込受付証明書（大学提出用）」を「検定料払込証明書」に貼って提出してください。	全 員
受験票等送付用封筒	本研究科所定の封筒に362円分の郵便切手を貼り、志願者の住所・氏名・郵便番号を明記したもの	全 員 （出願期間後、窓口での受け取り希望者は切手不要）
志願者名票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入したもの	全 員

備 考

- ① 出願書類受理後は、いかなる理由があっても、出願書類の記載内容の変更は認めません。また、出願書類は返却しません。
ただし、学術論文及び研究報告等の原本については返却します。
- ② 証明書等の氏名が現在のものと異なっている場合は、申立書（様式任意）を提出してください。
- ③ 提出書類中、外国語で書かれた証明書等には、その日本語訳を添付してください。
- ④ 教育実践高度化専攻（教職大学院）リーダーシップ開発コース志願者は、入学願書の職歴欄に主任職経験等も併せて記載してください。

(3) 出願書類等提出先

〒790-8577
松山市文京町3番
愛媛大学教育学生支援部教育支援課教育学部チーム
電話 089-927-9377

(4) 検定料の返還

次に該当した場合は納入済みの検定料を返還します。

- ① 検定料を納入したが、出願しなかった場合
- ② 検定料を誤って二重に納入した場合又は誤って所定の金額より多く納入した場合
- ③ 出願書類等を提出したが、出願が受理されなかった場合

〈返還請求の方法〉

(4)①又は②に該当した場合は、下記の連絡先に連絡してください。「検定料返還請求書」を送付しますので、必要事項を記入の上郵送してください。

(4)③の場合は、出願書類等返却の際に「検定料返還請求書」を同封しますので、必要事項を記入の上、下記の連絡先に郵送してください。

検定料返還に関する連絡先
〒790-8577
松山市道後樋又10番13号
愛媛大学財務部財務企画課出納チーム
電話 089-927-9074, 9077
Eメール suitou@stu.ehime-u.ac.jp

5 選抜方法

(1) 試験日

- 9月募集（教育実践高度化専攻，特別支援教育専攻，教科教育専攻，学校臨床心理専攻）
平成28年9月12日(月)
- 11月募集（教育実践高度化専攻）
平成28年11月20日(日)

(2) 試験場 愛媛大学教育学部

松山市文京町3番

(注) 試験室等については、試験日の前日（9月募集：平成28年9月11日(日)，11月募集：平成28年11月19日(土)）午前10時に教育学部本館玄関前に掲示します。

(3) 学力試験科目及び試験時間

ア 教育実践高度化専攻（教職大学院）

入学者の選抜は、一般選抜及び現職教員等特別選抜ともに、次のとおり、各コースごとに面接（口述試験含む。）を行い、提出書類の内容と総合して判定します。

専攻	コース	科目区分	面接（口述試験を含む。）
		試験時間	9:00 ↓ (1人15分～20分)
教育実践高度化 (教職大学院)	リーダーシップ 開発		◎面接（口述試験を含む。） 提出された書類及び課題レポートの内容について行います。12ページ「課題レポート」参照
	教育実践開発		◎同上

イ 特別支援教育専攻・教科教育専攻・学校臨床心理専攻

入学者の選抜は、各専修・コース・領域ごとに学力試験（筆記試験，口述試験及び実技試験）及び提出書類の内容を総合して判定します。なお，現職教員等及び外国人留学生については，(4)のとおり特別選抜を行います。

専攻	専修・コース	領域	科目区分	外国語	専門科目	口述試験 選択科目 (音楽教育領域)	
			試験時間	9 : 00 } 10 : 00	10 : 20 } 12 : 20	音楽教育領域 (10 : 20 } 11 : 50) 学校臨床心理専攻 (10 : 20 } 11 : 20)	13 : 30 } (1人10分～15分)
特別支援教育	特別支援学校教育 特別支援教育 コーディネーター			◎英 語 (特別支援教育の内容に関するもの)	◎SSE教育学 ◎SSE心理学・医学	必修 必修	◎口述試験 (志望する研究分野に関連する内容，研究計画書の内容について行います。)
教科教育	人文社会科学	国語教育	◎英 語	◎国語科教育 ○国文学 ○国語学 ○漢文学 ○書写・書道教育	必修 1科目 選択	◎ 同 上	
		社会科教育	◎英 語 (社会科教育領域の内容に関するもの)	◎社会科教育 ○歴史学 ○地理学 ○法学 ○経済学 ○社会学 ○哲学・倫理学	必修 1科目 選択	◎ 同 上	
		英語教育	◎英 語	◎英語科教育 ◎英語学	必修	◎ 同 上 (英語による面接を一部含みます。)	
	自然科学	数学教育	◎英 語 (数学教育領域の内容に関するもの)	◎数学科教育 ◎数学(代数学・幾何学・解析学の基礎的な問題)	必修 必修	◎口述試験 (志望する研究分野に関連する内容，研究計画書の内容について行います。)	
		理科教育	◎英 語 (理科教育領域の内容に関するもの)	◎理科教育 ○物理学 ○化学 ○生物学 ○地学	必修 1科目 選択	◎ 同 上	
		技術教育	◎英 語 (技術教育領域の内容に関するもの)	◎技術科教育 ○機械 ○木材加工・金属加工	必修 1科目 選択	◎ 同 上	
		生活健康科	保健体育	◎英 語 (保健体育領域の内容に関するもの)	◎保健体育科教育 ○体育学 ○運動学 ○学校保健	必修 1科目 選択	◎ 同 上
	家政教育		◎英 語	◎家庭科教育 ○食物学 ○被服学 ○住居学 ○保育学	必修 1科目 選択	◎ 同 上	

		科目区分	外国語	専門科目	口述試験 選択科目 (音楽教育領域)		
専攻	専修・ コース	領域	試験時間	9:00 } 10:00	10:20 } 12:20	音楽教育領域 (10:20 } 11:50) 学校臨床心理専攻 (10:20 } 11:20)	13:30 (1人10分~15分)
			音楽教育	◎英語	◎音楽教育	必修	◎共通実技試験 ○音楽科教育 } 1科目 ○ピアノ } 選択 ○管楽器 } ○声楽 } ○音楽デザイン } (12ページ「選択科目細目」参照)
			美術教育	◎英語	◎美術教育 } 必修 ○美術科教育 } ○絵画・デザイン } 1科目 ○彫刻・工芸 } 選択 ○美術理論・美術史 } ※選択科目のうち、「○美術科教育」以外の科目を選択する者は、作品又は研究レポート等を提出しなければならない。(詳細は12ページ「作品等提出要領」参照)	◎口述試験 (志望する研究分野に関連する内容、研究計画書の内容について行います。選択科目試験終了後に行います。)	
学校臨床 心理	学校 臨床学		◎英語 (学校臨床学の内容に関するもの)	◎学校臨床学	必修	◎口述試験 (志望する研究分野に関連する内容、研究計画書の内容について行います。)	
	臨床 心理学		◎英語 (臨床心理学の内容に関するもの)	◎臨床心理学	必修		

- 備考 ① ◎印は必修科目を，○印は選択科目を示します。
- ② ○印の選択科目については，出願時に入学願書の該当欄に各自の選んだ科目を記入し，届け出てください。
- ③ 外国語（英語）の試験には辞書の持ち込みを認めます。（電子辞書は不可）
ただし，英語教育領域志願者は外国語（英語）及び専門科目のいずれの試験についても辞書の持ち込みを認めません。

◆ 教育実践高度化専攻（教職大学院）の「課題レポート」

以下の2つの課題 a・b について、それぞれ1,000字程度で作成してください。

なお、提出書類は任意の用紙（A4）に横書きとし、全ての用紙の上部に氏名、フリガナ、生年月日、志望専攻・コースを記入してください。

課題 a

勤務校（過去の勤務校を含む）及び、実習校やボランティア校等で自ら経験した教育課題（子ども・教職員・保護者等が関わる課題）を一つ取り上げ、そのような教育課題が出現する背景を検討するとともに、当該校において適切と思われる具体的対応策について記述しなさい。

課題 b

選択したコースにおいて、入学後に自ら教師として伸ばすべき能力は何か。また、そのように考える理由は何か。さらに、その能力を伸ばすためには、教職大学院の修学期間において、何をどのように学び、自己の職能成長につなげたいか。2年間の成長プランの概要を記述しなさい。

◆ 音楽教育領域の「選択科目細目」

以下の(1)(2)の試験について、出願時に音楽教育領域選択科目実技試験検査票に必要事項を記入の上、楽譜と共に提出して下さい。

(1) 共通実技試験	
小・中・高等学校の中から1校種選び、選択した児童・生徒に指導したい任意の合唱曲について、試験当日指定されたパートを弾き歌いします。なお、指導上、必要と思われる場合は、提出された楽譜通りの伴奏を行わなくても構いません。	
(2) 選択科目別試験	
○ 音楽科教育	「音楽科教育に関する研究レポート」1編を出願時に提出することとし、当日の試験は実施しません。（テーマは音楽科教育に関する任意のもの。）すでに発表された論文等がある場合は、その写しでも構いません。
○ ピアノ	10分以上の任意の独奏曲（複数曲可）を暗譜で演奏します。（演奏は中断させることがあります。）
○ 管楽器	任意の独奏曲（複数曲可）を演奏します。（演奏は中断させることがあります。）暗譜に関しては任意とします。また、伴奏を必要とする場合は、受験者が同伴してください。
○ 声楽	オペラ、オラトリオ、コンサート・アリア、もしくは歌曲（日本歌曲を含む。）の中から任意の1曲を原語で歌唱します。（歌曲以外は原調による。）また、伴奏を必要とする場合は、受験者が同伴するか、弾き歌いも可とします。
○ 音楽デザイン	任意の編成による自作品の楽譜またはその演奏を記録した媒体を出願時に提出することとし、当日の試験は実施しません。記録媒体はCD・DVD・BD（Blu-ray Disc）のいずれかとします。なお、編曲作品も可とします。ただし、編曲作品の場合は、原曲がわかる資料を添付してください。

◆ 美術教育領域の「作品等提出要領」

○ 作品	口述試験の際、自作の作品（3点以内）を持参してください。大きさは問いません。
○ 研究レポート等	「美術に関する研究レポート」1編を出願時に提出してください。既に発表された論文等がある場合は、その写しでも構いません。

(4) 特別選抜

• 現職教員等特別選抜

- ① 外国語（英語）の試験は免除します。
- ② 研究業績書及び論文・研究報告等を提出することにより、専門科目のうちの選択科目の1科目（数学教育領域は必修科目「数学」）と代替することができます。
ただし、特別支援学校教育専修及び学校臨床心理専攻志望の者については、現職教員等に対する代替措置を行いません。
※ 研究業績書に記載する研究業績とは、大学卒業後の業績で、専門分野又は教育実践にかかわり、公表したものに限ります。
例えば、著書、論文、研究報告、作品、講演（演奏会）など
※ 提出する論文・研究報告等については、次のとおりです。
 - ア. 著書
 - イ. 学会誌、紀要等に記載された論文
 - ウ. 雑誌等に記載された論文、研究報告
 - エ. 作品、CD・DVD等
 - オ. その他これに準ずるもの
- ③ 口述試験は、全員受験とします。
- ④ 特別支援教育コーディネーター専修は筆記試験を免除し、教育実践・研究報告書を100点、口述試験を100点とし、計200点として採点します。うち20年以上の勤務経験がある退職教員については、志望理由・自己推薦書は口述試験の際の資料とします。
- ⑤ 20年以上の勤務経験がある退職教員については、外国語、専門科目試験を免除し、志望理由・自己推薦書を100点、教育業績書を100点、口述試験を100点とし、計300点として採点します。

なお、教育実践高度化専攻（教職大学院）については9ページ(3)アのとおり行います。

• 外国人特別選抜

- ① 口述試験及び外国語（英語）の試験は全員受験としますが、英語の試験は日本語の試験で代替することができます。
- ② 研究業績書及び論文・研究報告等1点の原本又は写し（外国語で書かれたものには、その日本語訳を添付すること）を提出することにより、専門科目の全部と代替することができます。
ただし、音楽教育領域の選択科目試験は行いません。
研究業績書及び論文・研究報告等については、上記「現職教員等特別選抜②の※」を参照してください。

6 配点, 採点・評価基準, 合否判定基準

(1) 配点

① 一般選抜

専攻	科目区分		外国語	専門科目	書類 審査	課 題 レ ポ ー ト	面接・ 口述 試験	計	
	専修・ コース	領域							
教育実践 高度化 (教職大学院)	教育実践開発		—	—	◎書類 審査 100点	◎課題 レポート 100点	◎面接 (口述 試験 含む。) 100点	300点	
特別支援教育	特別支援 学校教育		◎英語 100点	◎SSE 教育学 100点	—	—	◎口述 試験 100点	400点	
	特別支援教育 コーディネーター			◎SSE 心理学・医学 100点					
教科教育	人文社会科学	国語教育		◎国語科教育 100点 ○選択科目 100点					
		社会科教育		◎社会科教育 100点 ○選択科目 100点					
		英語教育		◎英語科教育 100点 ◎英語学 100点					
		自然科学		数学教育					◎数学科教育 100点 ◎数学 100点
				理科教育					◎理科教育 100点 ○選択科目 100点
				技術教育					◎技術科教育 100点 ○選択科目 100点
	生活健康科学	保健体育		◎保健体育科教育 100点 ○選択科目 100点					
		家政教育		◎家庭科教育 100点 ○選択科目 100点					
	芸術	音楽教育		◎音楽教育 100点 ○選択科目 100点					
		美術教育		◎美術教育 100点 ○選択科目 100点 ○美術科教育 100点 ○絵画・デザイン※ } 50点 ○彫刻・工芸※ } ○美術理論・美術史※ } 100点 ※選択者のみ作品又は 研究レポート等 50点					
	学 校 臨 床 心 理	学校臨床学							◎学校臨床学 100点
		臨床心理学							◎臨床心理学 100点

② 現職教員等特別選抜

専攻	科目区分		専 門 科 目	書類 審査	課 題 レポート	面接・ 口述 試験	計
	専修・ コース	領域					
教育実践 高度化 (教職大学院)	リーダーシップ 開発	教育実践開発	—	◎書類 審査 100点	◎課題 レポート 100点	◎面接 (口述 試験 含む。) 100点	300点
特別支援教育	特別支援 学校教育 特別支援教育 コーディネーター		◎SSE教育学 100点				300点
			◎SSE心理学・医学 100点				◎教育実践・研究報告書等 100点
教科教育	人文社会科学	国語教育	◎国語科教育 100点 ○選択科目又は 研究業績書等 100点	—	—	◎口述 試験 100点	300点
		社会科教育	◎社会科教育 100点 ○選択科目又は 研究業績書等 100点				
		英語教育	◎英語科教育 100点 ◎英語学又は 研究業績書等 100点				
	自然科学	数学教育	◎数学科教育 100点 ◎数学又は 研究業績書等 100点				
		理科教育	◎理科教育 100点 ○選択科目又は 研究業績書等 100点				
		技術教育	◎技術科教育 100点 ○選択科目又は 研究業績書等 100点				
	生活健康科学	保健体育	◎保健体育科教育 100点 ○選択科目又は 研究業績書等 100点				
		家政教育	◎家庭科教育 100点 ○選択科目又は 研究業績書等 100点				
	芸術	音楽教育	◎音楽教育 100点 ○選択科目又は 研究業績書等 100点				
		美術教育	◎美術教育 100点 ○選択科目又は研究業績書等 ○美術科教育 } 100点 ○絵画・デザイン※ } 50点 ○彫刻・工芸※ } ○美術理論・美術史※ } 100点 ※選択者のみ作品又は 研究レポート等 50点				
学校 臨床心理	学校臨床学	◎学校臨床学 100点					200点
	臨床心理学	◎臨床心理学 100点					

備 考

20年以上の勤務経験がある退職教員の場合は、13ページ・現職教員等特別選抜④及び⑤を参照してください。

③ 外国人特別選抜

専攻	科目区分		外国語	専門科目	口述試験・ 選択科目 (音楽教育領域)	計	
	専修・ コース	領域					
特別支援教育	特別支援 学校教育			◎ SSE 教育学 100点 ◎ SSE 心理学・医学 100点 又は研究業績書等 200点			
教科教育	人文社会科学	国語教育	◎英語 又は 日本語 100点	◎国語科教育 100点 ○選択科目 100点 又は研究業績書等 200点	◎口述試験 100点	400点	
		社会科教育		◎社会科教育 100点 ○選択科目 100点 又は研究業績書等 200点			
		英語教育		◎英語科教育 100点 ◎英語学 100点 又は研究業績書等 200点			
		自然科学		数学教育			◎数学科教育 100点 ◎数学 100点 又は研究業績書等 200点
				理科教育			◎理科教育 100点 ○選択科目 100点 又は研究業績書等 200点
		技術教育		◎技術科教育 100点 ○選択科目 100点 又は研究業績書等 200点			
	生活健康科学	保健体育		◎保健体育科教育 100点 ○選択科目 100点 又は研究業績書等 200点			
		家政教育		◎家庭科教育 100点 ○選択科目 100点 又は研究業績書等 200点			
	芸術	音楽教育		◎音楽教育 100点 又は研究業績書等 100点			◎口述試験 100点 ○選択科目 100点
		美術教育		◎美術教育 100点 ○選択科目 ○美術科教育 100点 ○絵画・デザイン※ } 50点 ○彫刻・工芸※ } ○美術理論・美術史※ } 100点 ※選択者のみ作品又は 研究レポート等 50点 又は研究業績書等 200点			◎口述試験 100点

(2) 採点・評価基準

専攻	専修・コース	領 域	科 目 等	採点・評価基準（一般的基準）	
教育実践高度化 (教職大学院)	リーダーシップ開発	/	◎書類審査	リーダーシップ開発に係る適性について評価します。	
			◎課題レポート	学校経営に関する専門的学力について評価します。	
	教育実践開発	/	◎面接 (口述試験を含む。)	学校経営に対する意欲・課題意識・分析力等について評価します。	
			◎書類審査	教育実践開発に係る適性について評価します。	
特別支援教育	特別支援学校教育・特別支援教育コーディネーター	/	◎英語	語学力ならびに専門的知識を評価します。	
			◎SSE 教育学	専門的学力を評価します。	
			◎SSE 心理学・医学	専門的学力を評価します。	
			◎口述試験	目的意識、勉学意欲、自己表現力、基礎学力を評価します。	
	特別支援教育コーディネーター(現職)	/	◎教育実践・研究報告書等	専門的学力を評価します。	
			◎口述試験	目的意識、勉学意欲、自己表現力、基礎学力を評価します。	
	特別支援学校教育(外国人)	/	◎英語又は日本語	一般的学力を評価します。	
			◎SSE 教育学	専門的学力を評価します。	
			◎SSE 心理学・医学	専門的学力を評価します。	
			◎研究業績書等	専門的学力を評価します。	
	教科教育	人文社会科学	国語教育	◎英語又は日本語	一般的学力を評価します。
				◎国語科教育	専門的学力を評価します。
○選択科目				専門的学力を評価します。	
◎研究業績書等				研究能力を評価します。	
◎口述試験			目的意識、研究能力、コミュニケーション能力を評価します。(一般・現職)		
◎口述試験			目的意識、勉学意欲、コミュニケーション能力を評価します。(外国人)		
社会科教育			◎英語又は日本語	語学力ならびに社会科教育に関する専門的知識を評価します。	
			◎社会科教育	専門的学力を評価します。	
			○選択科目	専門的学力を評価します。	
			◎研究業績書等	研究能力を評価します。	
◎口述試験			目的意識、勉学意欲、基礎的知識、自己表現力を評価します。		
英語教育			◎英語又は日本語	研究上必要となる英語力あるいは日本語力を評価します。	
		◎英語科教育	研究上必要となる専門的知識を評価します。		
		◎英語学	英語学に関する基礎的知識を評価します。		
		◎研究業績書等	学術的または実践的価値を総合的に評価します。		
◎口述試験		目的意識、勉学意欲、自己表現力を評価します。			
自然科学		数学教育	◎英語又は日本語	語学力ならびに専門的知識を評価します。(一般)	
			◎数学科教育	一般的学力を評価します。(外国人)	
			◎数学	専門的学力を評価します。	
			◎研究業績書等	専門的学力、研究能力を評価します。	
		◎口述試験	基礎学力、目的意識、勉学意欲、自己表現力を評価します。		
		理科教育	◎英語又は日本語	語学力ならびに専門的知識を評価します。(一般)	
			◎理科教育	一般的学力を評価します。(外国人)	
			○選択科目	専門的学力を評価します。	
	◎研究業績書等		教材研究に資する専門的学力を評価します。		
	◎口述試験	目的意識、勉学意欲、自己表現力を評価します。			
	技術教育	◎英語又は日本語	一般的学力を評価します。		
		◎技術科教育	専門的学力を評価します。		
○選択科目		専門的学力を評価します。			
◎研究業績書等		専門的な研究資質を評価します。			
◎口述試験	目的意識、勉学意欲、自己表現力を評価します。				

専攻	専修・コース	領域	科目等	採点・評価基準（一般的基準）
教科教育	生活健康科学	保健体育	◎英語又は日本語	一般的学力を評価します。
			◎保健体育科教育	専門的学力を評価します。
			○選択科目	専門的学力を評価します。
			研究業績書等	専門的学力，研究能力を評価します。
			◎口述試験	目的意識，勉学意欲，自己表現力，基礎学力を評価します。
	家政教育	◎英語又は日本語		一般的学力を評価します。（一般）
				学業に耐える力を評価します。（外国人）
			◎家庭科教育	専門的学力を評価します。（一般） 家庭科教育の理論・実践に関する専門的学力を評価します。（現職・外国人）
			○選択科目	専門の基礎的な学力を評価します。
			研究業績書等	専門的な力を評価します。
	芸術	音楽教育	◎英語又は日本語	一般的学力を評価します。
			◎音楽教育	専門的学力を評価します。
			○選択科目	基礎能力，表現力，創造力，それらを総合する力を評価します。
			研究業績書等	専門的学力や音楽的表現力，創造力を評価します。
			◎口述試験	基礎学力，理論性を評価します。
美術教育	◎英語又は日本語		一般的学力を評価します。	
		◎美術教育	専門的学力を評価します。	
		○選択科目	専門的学力や造形的な表現力を評価します。	
		研究業績書等	専門的な研究能力を評価します。	
		◎口述試験	目的意識，勉学意欲，自己表現力と基礎学力を評価します。	
学校臨床心理	学校臨床学	◎英語	◎英語	学校臨床学に関わる英語能力を評価します。
			◎学校臨床学	学校臨床学に関わる学力を評価します。
			◎口述試験	目的意識，勉学意欲，自己表現力を評価します。
	臨床心理学	◎英語	◎英語	臨床心理学に関する英文の読解能力を評価します。
			◎臨床心理学	臨床心理学の専門知識を評価します。
			◎口述試験	コミュニケーション能力を評価します。

備考 ① ◎印は必修科目を，○印は選択科目を示します。

② 20年以上の勤務経験がある退職教員の採点・評価基準は以下のとおりです。

	科目等	採点・評価基準（一般的基準）
20年以上の勤務経験がある退職教員	志望理由・自己推薦書	目的意識，勉学意欲を評価します。
	教育業績書	実践的知識・技能，専門的知識・技能を総合的に評価します。
	口述試験	目的意識，勉学意欲，基礎的知識，自己表現力などを評価します。

(3) 合否判定基準（全専攻，専修・コース・領域共通）

総合点で合否を判定するとともに，同点者は同順位とします。

7 障がい等を有する入学志願者の事前相談

障がい等を有する入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする場合は、出願の前に、あらかじめ教育学生支援部教育支援課教育学部チームに次のとおり相談してください。

(1) 相談の時期

原則として、9月募集は平成28年7月15日(金)

11月募集は平成28年9月30日(金)

なお、体幹及び両上下肢の機能障害が著しい者で、代筆解答を希望する者は、出願前のできるだけ早い時期に教育学生支援部教育支援課教育学部チームと相談してください。

(2) 相談の方法

相談申込書の提出により行います。必要な場合は、教育学研究科において志願者との面談等を行います。

(3) 相談に必要な書類等

① 相談申込書(様式任意)

相談申込書は、志願者の氏名、住所、電話番号、出身学校名、障がいの状況、志願専攻・専修・コース・領域、受験上及び修学上配慮を希望する事項等、出身学校における修学上の配慮及び生活状況等について記載してください。

② 医師の診断書等

医師の診断書(写しでも可)又は身体障害者手帳の写しなどで障がい等の状況が確認できるものを添付してください。

(4) 相談の申込先・連絡先

教育学生支援部教育支援課教育学部チーム

電話 089-927-9377

8 合格者発表

{ 9月募集：平成28年9月21日(水) 午前10時
{ 11月募集：平成28年12月2日(金) 午前10時

教育学部本館玄関前に掲示するとともに、合格者には合格通知書を送付します。

電話での照会には一切応じません。

合格者には合格通知とともに入学手続に関する詳細を通知します。

なお、合格者受験番号一覧を希望する者は、出願時に氏名、住所を明記し、362円分の切手を貼付した返信用封筒を同封してください。

9 長期履修学生制度(修士課程対象)について

本研究科には、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程の履修を認めることができる長期履修学生制度を導入しています。

<申請資格>

長期履修学生を希望することができる者は、以下のとおりです。

- (1) 現に職業に従事している者
- (2) 教育職員免許状を取得するために長期履修が必要と認められる者
- (3) その他やむを得ない事情があると研究科長が特に認めた者

<修業年限>

長期履修学生制度の適用を受けた学生の修業年限は、学則に規定された標準修業年限（2年）に1年を加えた年数とします。なお、修業年限の変更はできません。

<申請方法>

長期履修学生を希望する者は、入学時の入学手続期間内に以下の書類により研究科長に申請し、その申請に基づいて書類審査等を行い、許可を得ることが必要になります。

- (1) 長期履修申請書（所定の様式）
- (2) 在職を証明する書類等（様式任意）又は教育職員免許状取得希望調書（所定の様式）など研究科長が必要と認める書類

<教育職員免許状の取得について>

教育職員免許状を取得するために長期履修が必要と認められた者の取得できる免許状は、本学教育学部で取得できる教育職員免許状*のうち原則として1つとします。

なお、同一教科名の中学校及び高等学校教諭免許は1つとみなすものとします。ただし、社会と地理歴史、公民については、同一教科名に準じます。特別支援学校教諭の免許状を取得する場合は、その基礎資格となる免許状を取得済みの者に限ります。

*本学教育学部で取得できる免許状：幼稚園，小学校，中学校（中等教育コースの各専攻に対応した教科），高等学校（「情報」を除く中等教育コースの各専攻に対応した教科），特別支援学校（聴覚障害者，知的障害者，肢体不自由者，病弱者に関する教育の領域）

<授業料（年額）>

長期履修学生として認められた期間の授業料の年額は次のとおりです。

[標準修業年限（2年間）の総額÷長期履修期間（3年）]

10 入学料及び授業料等

(1) 入学料，授業料

入学料 282,000円

授業料 前期分267,900円（年間535,800円）

(注) 入学料及び授業料の額は平成28年度納付額であり、平成29年度は改定になる場合があります。また、在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されることになります。

(2) 入学料の免除制度

次のいずれかに該当する者は、入学料（全額又は半額）を免除することがあります。

- ① 経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者
- ② 入学前1年以内において、本人の学資を主として負担する者が死亡し又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難であると認められる者

(3) 授業料の免除制度

次のいずれかに該当する者は、授業料（全額又は半額）を免除することがあります。

- ① 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者
- ② 入学前1年以内において、本人の学資を主として負担する者が死亡し又は本人若しくは

学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる者

(4) 奨学制度

日本人で日本学生支援機構の奨学金の貸与を希望する者は、選考の上、奨学金が貸与されます。

第一種……………無利子、月額50,000円、88,000円から選択（平成28年度）

第二種……………有利子

5万円、8万円、10万円、13万円、15万円から選択（平成28年度）

(5) 諸経費

同窓会費 20,000円（本学教育学部出身者を除く。）

後援会費 10,000円

5,000円（特別支援教育コーディネーター専修学生）

校友会費 20,000円（本学出身者で納入済みの場合は不要）

学生教育研究災害傷害保険料 }
学生教育研究賠償責任保険料 } 2,000円程度（専攻等により異なります。）

（注）諸経費は変更になる場合があります。

(6) その他

学校臨床心理専攻臨床心理学コースでは、学生の心理臨床の力量を高めるために外部の専門家の協力を得てスーパービジョンを実施しています。授業科目「臨床心理実習1,2」におけるスーパービジョンの経費は校費で支出します。授業以外に、さらなる自己研鑽のために外部の専門家のスーパービジョンを希望する場合は、個人負担となります。

11 教育方法の特例措置

現職教員等に対しては、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置を適用し、現職教員等が高等教育を受ける機会を拡大するための措置を行います。

教育方法の特例措置の実施方法は、次のとおりです。

- (1) 修業年限2年のうち、第1年次は在職校等における勤務を離れて大学院での学業に専念し、教育実践高度化専攻（教職大学院）については課程修了に必要な46単位のうち原則として36単位以上を、特別支援教育専攻、教科教育専攻、学校臨床心理専攻については課程修了に必要な30単位のうち22単位以上を履修します。
- (2) 第2年次は、在職校等に復帰し勤務しながら週1回以上定期的に通学して、残りの単位を修得するとともに修士論文作成のための指導を受けるものとします。（教育実践高度化専攻（教職大学院）及び臨床心理学コースを除く。）
- (3) 第2年次の特例による授業は、夜間、週末又は夏季・冬季休業期間中に実施します。
- (4) 学校臨床心理学専攻臨床心理学コース2年次においては、「特別研究」（8単位）が必修科目であり、さらに臨床心理士受験資格取得のためには「臨床心理実習2」（1単位）が必修科目です。14条特例による派遣教員で臨床心理学コースを受験する方は、最低週2回は単位修得のための研修日が必要となりますので留意してください。
- (5) 教育実践高度化専攻（教職大学院）2年次においては、「学校改善課題研究3（リーダーシップ開発コース4単位）」「授業改善課題研究3（教育実践開発コース4単位）」「地域連携実習2（両コース4単位）」が必修科目です。週1日は、勤務校において実習を行います。また、課題研究は、原則として大学教員が勤務校を訪問し、勤務校にて行います。また、週末又は夏季・冬季休業期間中に大学に集まり、集団での学習を行い単位履修を進めます。

12 個人情報取扱

本学では、出願受けを通じて取得した氏名、住所等の個人情報は、本学における出願の事務処理、出願書類等に不備があった場合の連絡、試験の実施、合格者発表、合格された場合の入学手続関係書類の送付等のために利用します。

なお、出願書類等に不備があった場合には、その訂正・補完を迅速に行っていただくために、本学を受験されること及び提出した出願書類等に不備があることを、保護者等又は所属学校に通知する場合があります。

また、本選抜に係る個人情報は、合格者の入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、授業料等に関する業務及び調査・研究（入試の改善や志願動向の調査・分析等）を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

13 募集要項の請求方法等

- (1) 募集要項の請求を郵便で行う場合は、封筒の表に「大学院教育学研究科募集要項請求」と朱書し、返信用封筒（角形2号封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、250円分の郵便切手を貼ったもの）を同封の上、下記へ請求してください。

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学教育学生支援部教育支援課教育学部チーム
電話 089-927-9377

- (2) 出願について不明な点等があった場合は、上記教育学部チームに照会してください。

14 成績の開示

- (1) 請求者
受験者本人に限ります。（代理人は不可）

- (2) 請求期間
平成29年5月1日(月)から平成29年5月31日(水)
郵送による請求のみとし、この期間内の消印があるもの限り受け付けます。

- (3) 請求方法
書面（記入例参照）により、平成29年度愛媛大学受験票と、402円分の切手を貼付し自己のあて先を明記した返信用封筒（長形3号;12cm×23.5cm）を同封して、教育学生支援部教育支援課教育学部チームへ請求してください。

- (4) 開示方法
到着後、2週間程度で受験者本人あてに、郵送された受験票とともに、簡易書留郵便で送付します。

（請求書面記入例）

愛媛大学大学院教育学研究科長 殿	平成 年 月 日
	請求者氏名 _____ 印
	愛媛大学受験番号 _____
	連絡先 電話 - - _____
大学院教育学研究科入学試験 個人成績開示請求書	
平成 年度の大学院教育学研究科入学試験について、下記のとおり開示 請求します。	
記 試 験 成 績	

15 教育学研究科案内

教育実践高度化専攻（教職大学院）

教育実践高度化専攻（教職大学院）では、教育課程の編成・実施、教科等の実践的指導方法、生徒指導及び教育相談、学級経営及び学校経営、学校教育と教員の在り方の5領域から構成される「共通基礎科目群」での基本的な学習を基盤とし、リーダーシップ開発及び教育実践開発の2つのコースから構成される「コース別選択科目群」での学習を通して、スクールリーダー及び高度な実践的指導力をもった教員の養成を目指します。

領域	領域の内容及び関連授業科目	主な授業担当教員名
共通基礎科目	教育課程の編成及び実施に関する領域 授業研究の開発実践に関することや授業開発の理論と実際について学びます。 ----- 関連授業科目：授業研究の開発実践、授業開発の理論と実際	教授 露口 健司 教授 平松 義樹 准教授 吉村 直道 ほか
	教科等の実践的な指導方法に関する領域 心の教育の理論と実践に関することや授業における学習支援と指導法の事例分析に関することについて学びます。 ----- 関連授業科目：心の教育の理論と実践、授業における学習支援と指導法の事例分析	教授 太田 佳光 教授 小田 哲志 准教授 吉村 直道 ほか
	生徒指導及び教育相談に関する領域 子どもの問題行動や子どもの発達と感情、特別支援教育の理論と実践、生徒指導・進路指導に関することについて学びます。 ----- 関連授業科目：子どもの問題行動の事例研究、子どもの発達と感情、特別支援教育の理論と実践、生徒指導・進路指導の実践研究	教授 小田 哲志 教授 橋本 巖 准教授 信原 孝司 ほか
	学級経営及び学校経営に関する領域 学級経営の理論と実践に関することや学校組織のリーダーシップに関することについて学びます。 ----- 関連授業科目：学級経営の理論と実践、学校組織のリーダーシップ	教授 太田 佳光 教授 露口 健司 教授 城戸 茂 ほか
	学校教育と教員の在り方に関する領域 教員の成長と職業倫理、教師のライフヒストリー省察と資質能力開発、愛媛の教育改革に関することについて学びます。 ----- 関連授業科目：教員の成長と職業倫理、教師のライフヒストリー省察と資質能力開発、愛媛の教育改革	教授 平松 義樹 教授 露口 健司 教授 白松 賢 ほか
コース別選択科目	リーダーシップ開発コース 教育政策の立案と評価、教員研修プログラム開発、信頼を構築する学校危機管理、データを活用した学校経営、カリキュラムマネジメントと校内研修、人材育成に関することについて学びます。 ----- 関連授業科目：教育政策の立案と評価、教員研修プログラム開発演習、信頼を構築する学校危機管理、データを活用した学校経営、カリキュラムマネジメントと校内研修、人材育成演習、学校改善課題研究1・2・3	教授 山崎 哲司 教授 平松 義樹 教授 露口 健司 教授 小田 哲志 教授 城戸 茂 ほか
	教育実践開発コース 子ども理解、教材開発、教育課題解決のための教育プログラム開発、学級経営と生徒指導、特別な教育的ニーズへの対応、児童生徒・保護者の教育相談に関することについて学びます。 ----- 関連授業科目：子ども理解の心理アプローチ、教材開発演習、教育課題解決のための教育プログラム開発演習、学級経営と生徒指導の事例研究、特別な教育的ニーズへの対応、児童生徒・保護者の教育相談実践、授業改善課題研究1・2・3	教授 太田 佳光 教授 橋本 巖 教授 白松 賢 准教授 榎木 暢子 ほか

特別支援教育専攻

特別支援学校教育専修

特別支援学校教育専修は、特別支援教育学、特別支援心理学、特別支援医学の3領域から構成され、特別支援教育や障害者医療・福祉の現実的諸問題に対応できる人材の養成を目的としています。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
特別支援教育学	特別支援教育の理念、制度、歴史、特別支援学校や通常学級における教育的支援の実際等について学びます。 ----- 関連授業科目：特別支援教育総論、学校における支援体制、聴覚障害学特論、聴覚補償学演習	教授 立入 哉 准教授 加藤 哲則 未 定
特別支援心理学	特別支援教育の対象となる幼児・児童・生徒の心理的側面に関する研究や、それらに対する心理療法、福祉工学的アプローチ等について学びます。 ----- 関連授業科目：言語障害児心理臨床研究、知的障害児の心理学、発達障害児の心理学	教授 山下 光 教授 吉松 靖文 准教授 荻田 知則 准教授 加藤 匡宏
特別支援医学	特別支援教育の対象となる幼児・児童・生徒の医学的諸問題や、それらに対する医学的、教育的支援等の実際について学びます。 ----- 関連授業科目：発達障害児の医療、発達障害児指導法研究	准教授 中野 広輔

特別支援教育コーディネーター専修

特別支援教育コーディネーター専修は幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において、特別支援教育コーディネーターとして活動するために必要な障害児・者の教育、心理、医学について包括的に学ぶ1年制の課程です。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
特別支援教育学 特別支援心理学 特別支援医学	幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において、特別支援教育コーディネーターとして活動するために必要な障害児・者の教育、心理、医学について学習するとともに、学校現場での実習や小グループでの演習を通じて実践的な技量を身につけます。 ----- 関連授業科目：アセスメントの方法と計画、アセスメントの総合的解釈、言語・コミュニケーションの指導、行動上の問題への対応、社会的自立・就労の指導、保護者・教師への支援	教授 山下 光 教授 吉松 靖文 准教授 荻田 知則 准教授 中野 広輔 准教授 加藤 哲則 准教授 加藤 匡宏 未 定

教科教育専攻

人文社会科学コース

国語教育領域

国語教育領域においては、日本人の思考の源となる言語感覚を豊かにし、国語を尊重する態度を涵養する態度を育てるためのカリキュラムを構成しています。国語科教育学、国語学、国文学(近代・古典)、漢文学、書写書道教育学を専門とする教員が指導に当たります。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
国語教育学	国語科教育のあり方に関して、授業論、発達論、評価論などの視点から研究を行います。 ----- 関連授業科目：国語科教育方法の探究1、国語科教育方法の探究2	教授 中西 淳
	国語科教育の実践のあり方について、目標論・学力論・学習者論・授業論・評価論および国語教育史の視点から考究します。 ----- 関連授業科目：国語科教育実践の探究1、国語科教育実践の探究2	未定
国語学	国語教育の内容学としての日本語研究。母語である日本語を客観的にとらえ、その性質・構造を明らかにします。また、そこで得られた知識、分析法・研究法を国語教育にどのように生かすかについて研究します。 ----- 関連授業科目：日本語教材の開発と探究1、日本語教材の開発と探究2	教授 佐藤 栄作
	日本近代文学に関して、教科「国語」の文学的文章の指導を視野に入れ、作品分析と作家理解を中心に研究します。 ----- 関連授業科目：近現代の文章の分析と鑑賞1、近現代の文章の分析と鑑賞2	准教授 青木 亮人
日本古典文学	日本古典文学の作家や作品について、原文講読や作品解説、研究史を踏まえた講義などを行います。 ----- 関連授業科目：古典教材の分析と鑑賞1、古典教材の分析と鑑賞2	教授 小助川元太
漢文学	漢文における基礎的知識を学習し、さらに日中の辞書類を用いて、様々な作品の研究を行います。 ----- 関連授業科目：漢文教材の分析と鑑賞1、漢文教材の分析と鑑賞2	准教授 太田 亨
書写・書道教育	国語科書写の硬筆・毛筆の実技学習および理論研究と書道作品の鑑賞を中心とした教材開発の研究を行います。 ----- 関連授業科目：書写・書道の実技と教材開発1、書写・書道の実技と教材開発2	教授 東 賢司

国語教育領域の授業科目には、上記の他、「教科指導力高度化演習」があります。

社会科教育領域

社会科教育領域においては、社会科の実践的基礎となる歴史学、地理学、法学、経済学、社会学、哲学等の専門的研究やそれに基づく社会科教育の理論的研究を行い、社会科教員として必要な専門的資質および研究能力の向上と、社会科教育の諸問題にかかわる教育実践力の向上を図ります。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
社会科教育	社会科教育の理論的・実践的課題を考察するとともに、社会科教育研究に必要な基礎理論や授業理論などについて教育・研究を行います。 ----- 関連授業科目：社会科教育実践の探究1，社会科教育実践の探究2，社会科教育方法の探究1，社会科教育方法の探究2	教授 鴛原 進 准教授 福田 喜彦
歴史学	歴史学界の最新動向や研究上の諸問題を取り上げながら、文献や史料の講読を通じて、日本史・西洋史・東洋史に関する教育・研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎（日本史），資料の読解と分析（日本史），教材研究の基礎（西洋史），資料の読解と分析（西洋史），教材研究の基礎（東洋史），資料の読解と分析（東洋史）	教授 川岡 勉 准教授 森 貴子
地理学	持続的発展，都市と農村，地球環境問題といった人文地理学・自然地理学の諸課題について教育・研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎（人文地理学），資料の読解と分析（人文地理学），教材研究の基礎（自然地理学），資料の読解と分析（自然地理学）	教授 張 貴民 准教授 川瀬久美子
法学	教育に関する法的問題を取り上げつつ，判例・論文の講読を通じて，憲法をはじめとする法律学に関する教育・研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎（法学），資料の読解と分析（法学）	講師 中曾 久雄
経済学	近現代の経済社会の特質を論ずるとともに，現代の経済社会の構造転換のなかで新しい社会システムを模索する国内外のさまざまな試みについて，理論的・実証分析的な研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎（経済学），資料の読解と分析（経済学）	教授 松野尾 裕
社会学	社会学の基礎理論を文献講読によって把握した上で，社会保障制度，福祉制度に関する諸問題を取り上げながら教育・研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎（社会学），資料の読解と分析（社会学）	准教授 魁生由美子
哲学・倫理学	共生の時空性への問いという視点から，社会科教育や社会科の存在意義などについて教育・研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎（哲学），資料の読解と分析（哲学）	教授 壽 卓三

社会科教育領域の授業科目には，上記の他，「教科指導力高度化演習」があります。

英語教育領域

教科教育の専門分野である英語教育学と教科内容を講じる専門分野である英語学、英米文学の3分野から構成されています。英語教育の諸問題に関わる理論的探究能力と教育実践力の向上を図るとともに、英語科教員として必要な専門的資質および研究能力を身につけます。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
英語教育学	英語コミュニケーション論，第2言語習得論，英語授業論，英語教材論などの多様なテーマについて専門的知識を学ぶとともに，英語教育学の理論的，実証的，実践的研究方法の習得を目指します。 ----- 関連授業科目：英語科教育方法の探究1，英語科教育方法の探究2，英語科教育実践の探究1，英語科教育実践の探究2	教授 池野 修 未 定
英語学	言語研究の中核をなす音声学，音韻論，形態論，統語論，意味論，語用論を中心として，英語という言語がどのような特徴を持つ言語であるかを体系的に学びます。 ----- 関連授業科目：英語学の重要課題1，英語学の重要課題2，言語科学の重要課題（英語）1，言語科学の重要課題（英語）2	教授 David Bogdan 准教授 秋山 正宏
英米文学	英語教育教材という観点から，英語教科書に取り上げられる（文化）題材を分析する，あるいは英米文学作品の精読を行うなどの活動を通して，英語教育題材のあり方やその教授方法について多面的に検討します。 ----- 関連授業科目：英米文学教材研究の基礎理論，他	未 定

英語教育領域の授業科目には，上記の他，「教科指導力高度化演習」があります。

自然科学コース

数学教育領域

教科教育の専門分野である数学科教育および、教科内容の専門分野として代数学、幾何学、解析学、情報基礎科学から構成されています。各分野における研究を基礎としながら、附属学校等との共同研究を通して、数学科教育の理論的探究と実践的能力の育成を図っています。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
数学科教育	国内外の数学研究論文・資料等を検討しながら、数学教育における教授・学習の原理や方法、並びにその内容について教育研究を行います。 ----- 関連授業科目：数学科教育実践の探究1，数学科教育方法の探究1，数学科教育実践の探究2，数学科教育方法の探究2	教授 藤本 義明 准教授 吉村 直道
代数学	数・多項式・方程式に関する代数系の基礎理論、およびそれらと算数・数学で扱う教育内容との関わりについて教育研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（数と演算）、教材研究の基礎理論（整式と方程式）、教材の開発と実践（代数領域）	教授 安部 利之 講師 原本 博史
幾何学	初等幾何学を基礎として、離散幾何学や位相幾何学の幾何学分野について、幾何教育の視点を加え教育研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（平面幾何・空間幾何）、教材研究の基礎理論（和算・数学史）、教材の開発と実践（幾何領域）	教授 平田 浩一
解析学	数理学に現れるいくつかの決定論的な微分方程式を題材にして、解析的手法と数値解析的手法を用いて、微分方程式の解の性質について研究を行います。また、これらの手法の関連性（例えば、関数解析や関数近似など）についても併せて研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（初等関数）、教材研究の基礎理論（極限と微積分）、教材の開発と実践（解析領域）	教授 観音 幸雄
情報基礎科学	主に、コンピュータサイエンスで必要な数学的・理論的な考え方について研究します。その中で、コンピュータを用いた数学教育、数学を背景にした情報教育についても取り組みます。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（コンピュータの活用法）、教材研究の基礎理論（データの分析）、教材の開発と実践（情報数学領域）	准教授 河村 泰之

数学教育領域の授業科目には、上記の他、「教科指導力高度化演習」があります。

理科教育領域

自然に対する好奇心・探究心をもち、自然科学諸分野の教育・研究に関する基本的な専門知識および技能を有する人を求めています。専門書や論文の輪読、演習や実習、授業に関する多面的な構想や省察を通して、理科教育に関する理論的・実践的・開発的な研究能力と教育実践力を養います。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
理科教育学	理科教育の目的・方法・内容・評価などを研究対象として、教材研究、授業研究、カリキュラム研究、学習者の自然認識の研究などを行います。 ----- 関連授業科目：理科教育方法の探究1、理科教育方法の探究2、理科教育実践の探究1、理科教育実践の探究2	教授 隅田 学 准教授 向 平和
基礎物理学	古典力学、電磁気学、統計力学、量子力学など、物理学の基礎を習得するための授業法及び教材について研究及び開発を行います。 ----- 関連授業科目：教材の開発と探究（基礎物理学）、教材の開発と実践（基礎物理学）	准教授 細田 宏樹
応用物理学	熱電変換材料や磁性体などエネルギー変換材料や機能性材料の教育研究を行います。また、これらを利用した教材開発にも取り組みます。 ----- 関連授業科目：教材の開発と探究（応用物理学）、教材の開発と実践（応用物理学）	准教授 中本 剛
無機化学	化学教育教材の開発と実践、および分析化学的手法について研究します。色の変化を利用する教材や物理化学的手法など、さまざまな化学教育に関する研究と、その統計的評価を行います。 ----- 関連授業科目：教材の開発と探究（無機系化学）、教材の開発と実践（無機系化学）	准教授 大橋 淳史
有機化学	有機化学における新規の合成法および反応について研究します。また有機化学を中心とした化学教育についても取り扱います。 ----- 関連授業科目：教材の開発と探究（有機系化学）、教材の開発と実践（有機系化学）	教授 熊谷 隆至
動物学	発生生物学や分子生物学分野の研究および生物教育における教材開発などの教育研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材の開発と探究（動物）、教材の開発と実践（動物）	講師 中村 依子
地球科学	地球内部、表層、周辺領域に関する様々な事物・現象について、その内容学的検討や教材開発に取り組みます。 ----- 関連授業科目：教材の開発と探究（地球領域）、教材の開発と実践（地球領域）	教授 佐野 栄

理科教育領域の授業科目には、上記の他、「教科指導力高度化演習」があります。

技術教育領域

技術教育領域においては、技術と情報に関する科学的な内容を基礎として、「材料と加工」・「エネルギー変換」・「生物育成」・「情報」の観点から専門分野にとらわれることなく関連分野を統合し、技術教育を幅広く理解して教育実践力を養うことを目標としています。最新の科学技術を学校教育へ適用するための方法および教材開発、また、その社会的な位置づけ等を技術科教育、電気・電子技術、機械技術および情報技術に関する講義や演習を通して、学習することができます。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
技術科教育	技術科教育における技術の歴史や位置付け、その目標と内容などを解説します。教材を調査・分析し、望ましい学習指導のあり方を探究します。 ----- 関連授業科目：技術科教育実践の探究1，技術科教育実践の探究2，技術科教育方法の探究1，技術科教育方法の探究2	教授 森 慎之助 未 定
機 械	機械工学と材料加工の専門的な知識を基本とした教材、特にエネルギー変換を対象とした教材を開発することのできる能力を教授します。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（機械），教材の開発と実践（機械）	准教授 大西 義浩
電 気	電気、電子工学の専門的な知識を基本とした初等中学向けの専門的な教材を開発することのできる能力を教授します。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（電気・電子），教材の開発と実践（電気・電子）	教授 白濱 弘幸
情 報	教育現場等で扱われる調査データや実験データに対して多変量解析法を適用し、潜在因子の分析や将来予測など情報分析能力の向上を目指した教育研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（情報），教材の開発と実践（情報）	未 定

技術教育領域の授業科目には、上記の他、「教科指導力高度化演習」があります。

生活健康科学コース

保健体育領域

保健体育領域においては、保健・体育に関わる理論的・実践的課題についての研究・教育を行い、高度な専門性と教育実践を備えた人材の養成を目指しています。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
体育科教育学	よい体育の授業の探究を目的に、保健体育科のカリキュラム論、教授・学習論、研究方法論、体育教師教育論について、理論的・実践的に教育研究を行います。 ----- 関連授業科目：保健体育科教育実践の探究1・2、保健体育科教育方法の探究1・2	准教授 日野 克博 准教授 糸岡 夕里
スポーツ人類学 体育・スポーツ史	スポーツを文化の問題としてとらえ、時間軸による歴史的比較、空間をベースにした人類学的比較について教育研究を行います。 ----- 関連授業科目：教科内容の歴史的分析和解説（体育学）、教材の開発と探究1（体育学）	教授 石井 浩一
体育心理学	運動行動の学習理論、運動学習における付加的情報、記憶システムと運動の記憶、運動行動の制御、状況判断と運動行動、注意・予測、認知スキルの獲得、運動学習・運動制御と表象について教育研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（体育学）、教材の開発と探究2（体育学）	教授 田中 雅人
バイオメカニクス	身体運動・動作研究をする場合の観察法や分析法の基礎を学習する。運動学・バイオメカニクスにおける基本的な知識を正しく、論理的に理解するとともに、この応用法について教育研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（運動学）、教材の開発と探究（運動学）	教授 福田 隆
学校保健	学校における児童・生徒の健康管理や健康の保持増進を目的として、心身の健康に関連する要因の検討、健康教育の理論と実践について教育研究を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（学校保健）、教材の開発と探究（学校保健）	講師 上田 敏子

保健体育領域の授業科目には、上記の他、「教科指導力高度化演習」があります。

家政教育領域

家政教育領域においては家庭科教育学とその関連分野に関する専門的知識および教育実践力を有する人を求めます。人とあらゆる環境・資源との関わり合い、管理等に関する課題を通して、人間の成長・発達のうえで重要な人間・生活と環境の諸相を専門的に把握し、人間生活に関する教育実践力を養います。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
家庭科教育	家庭科教育の歴史と位置づけ，比較，目標，内容，評価などに関する研究，および学習者の発達段階に即した家庭科の授業内容，支援の方法，教材開発のあり方を探究します。 ----- 関連授業科目：家庭科教育方法の探究1，家庭科教育方法の探究2，家庭科教育実践の探究1，家庭科教育実践の探究2	准教授 藤田 昌子 准教授 竹下 浩子
食物学	自然および社会科学的方法を用いて食物分野に関する研究および教材研究・教材開発（機能性，安全・安心，献立，食生態，調理・加工および食教育等）等を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（食物学1），教材研究の基礎理論（食物学2），教材の開発と実践（食物学1），教材の開発と実践（食物学2）	准教授 宇高 順子 准教授 岡本 威明
被服学	衣服やテキスタイルの審美性や繊維製品の性能などの評価を通して，快適な衣生活をおくるために必要となる性能に関する研究・教材開発を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（被服学），教材の開発と実践（被服学）	准教授 眞鍋 郁代
住居学	居住空間（住宅・住生活・住環境）に関する研究および連携・協働による住環境教育の研究・教材開発を行います。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（住居学），教材の開発と実践（住居学）	未 定
保育学	乳幼児期の発達と保育環境の実態を捉え，保育教育の理論的・実践的課題を探究します。 ----- 関連授業科目：教材研究の基礎理論（保育学），教材の開発と実践（保育学）	教授 金子 省子

家政教育領域の授業科目には，上記の他，「教科指導力高度化演習」があります。

芸術コース

音楽教育領域

音楽および音楽科教育に関して、高度な専門的スキルと知識をもった人材の育成を目的としており、音楽科教育・器楽（ピアノ／管楽器）・声楽の専門分野の研究とともに、大学院生の各分野からも援助を行い、幅広い視点から研究が進展できるようにしています。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
音楽科教育	音楽科教育に関する基礎研究を推進し、学校教育における諸問題を解決するための方策について教育・研究を行います。 ----- 関連授業科目：音楽科教育実践の探究1，音楽科教育実践の探究2，音楽科教育方法の探究1，音楽科教育方法の探究2	教授 井上 洋一 准教授 楠 俊明
器楽 (ピアノ・管楽器)	作品について演奏法ならびに指導法の研究を行います。 ----- 関連授業科目：器楽（ピアノ）表現の探究1，器楽（ピアノ）表現の探究2，器楽（ピアノ）表現の探究3，器楽（ピアノ）表現の探究4，器楽（管楽器）表現の探究1，器楽（管楽器）表現の探究2	准教授 市川 克明 准教授 福富 彩子 講師 安積 京子
声楽	欧米および日本の声楽曲について、その歌唱法ならびに指導法の研究を行います。 ----- 関連授業科目：歌唱表現の探究1，歌唱表現の探究2	教授 木村 勢津

音楽教育領域の授業科目には、上記の他、「教科指導力高度化演習」があります。

美術教育領域

美術および美術教育に関する専門的な研究を深めていきます。絵画、デザイン、彫刻、工芸、美術理論・美術史などの領域での専門的研究と、それらを基礎とする美術科教育の理論的実践的研究を行い、美術全般にわたる教育的能力の深化を図ります。このことによって、学校現場に寄与できる人材、また、地域社会における芸術・文化の進展に貢献できる人材の育成を目指します。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
美術科教育	美術科教育に関する諸問題について考察します。 関連授業科目：美術科教育方法の探究1，美術科教育方法の探究2	准教授 秋山 敏行
	美術教育の特に工作・工芸教育に関する教育研究や、様々な素材を用いた教材開発に関する研究を行います。 関連授業科目：美術科教育実践の探究1，美術科教育実践の探究2	講師 福井 一真
絵画	油彩画を中心とする絵画制作および近・現代絵画の造形理論に関する教育研究を行います。 関連授業科目：実践と研究（絵画），表現と技法（絵画）	未 定
	彫刻制作および近・現代彫刻の造形理論に関する教育研究を行います。 関連授業科目：実践と研究（彫刻），表現と技法（彫刻）	准教授 佐々木昌夫
工芸	工芸分野の各領域に関連した作品制作を通して、その工芸的特質を考察します。工芸における造形素材や技法・表現等に関する教育研究を行います。 関連授業科目：実践と研究（工芸），表現と技法（工芸）	教授 原田 義明
	デザインに関する今日的な問題について、資料や調査を通して考察し、造形・デザインの構成要素を展開した提案力の深化を図ります。社会的背景などの様々な要素を総合して、関連性を重視した教育研究を行います。 関連授業科目：実践と研究（デザイン），表現と技法（デザイン）	教授 千代田憲子
美術理論・美術史	美術理論・美術史に関する諸問題について、資料の講読や作品研究を通じて実証的に考察します。 関連授業科目：資料の解説（美術理論・美術史），作品の分析（美術理論・美術史）	講師 上原 真依

美術教育領域の授業科目には、上記の他、「教科指導力高度化演習」があります。

学校臨床心理専攻

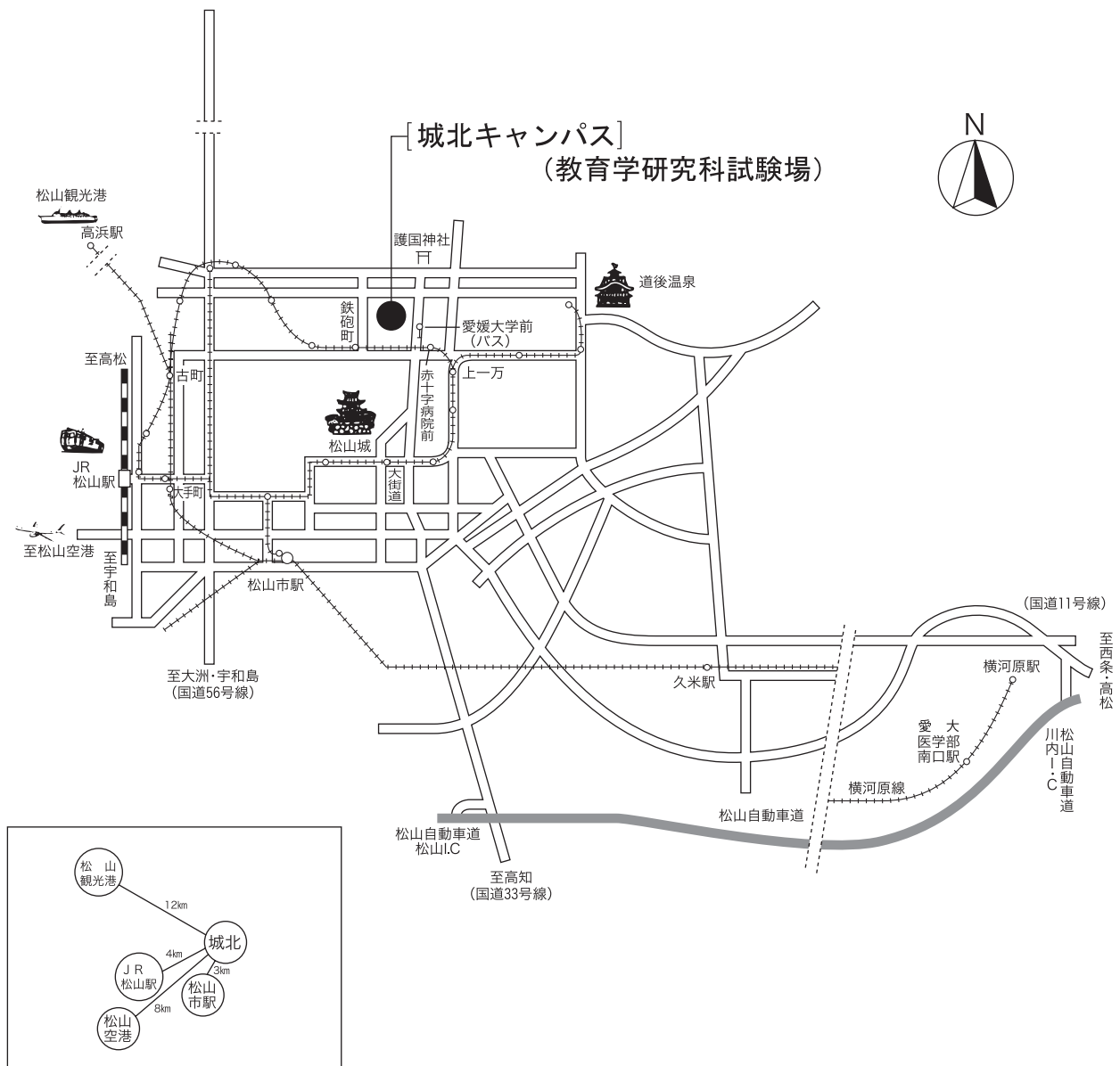
学校臨床心理専攻は、学校領域を始め社会の様々な領域で増加している、心の問題に対する、研究遂行能力と臨床実践力を持つ専門家の育成を目的としており、「学校臨床学コース」および「臨床心理学コース」からなっています。教育上の様々な問題点を心理学や教育学等の多角的視点から探究し知見を現場へ提言する応用的な学問領域です。

教育研究分野	教育研究分野の内容及び関連授業科目	授業担当教員名
学校臨床学 (教育倫理・道徳教育)	教師の倫理的資質や道徳教育の方法などを、教育哲学的観点から検討します。 関連科目：教育専門職者の哲学と倫理、市民育成としての道徳教育	講師 杉田 浩崇
学校臨床学 (教育課程・授業研究)	教育課程と教育過程（教授学習過程）に関する今日的課題について、授業内容研究を前提として検討します。 関連科目：教育の理論と実践、総合学習の理論と実践	准教授 梶原 郁郎
学校臨床学 (生涯学習学・社会教育学)	生涯学習の視点から、家庭・地域との連携の問題等、学校教育の課題を検討します。 関連科目：学校と地域の連携による学びの支援、生涯学習社会に育む学びの主体	准教授 山田 誠
学校臨床学 (学習指導過程)	教育心理学や学習科学、教育工学等の実証的なアプローチによって、個別及び集団での学習指導過程を検討します。 関連科目：実践研究の方法、授業設計と評価	准教授 富田 英司
発達心理学 家族心理学	家庭環境ならびに家族関係と、子どもの社会情緒的な発達との関連について検討します。 関連科目：子どもの発達と環境要因、心理統計解析特論	准教授 江上 園子
学校臨床学 (幼児教育学)	学校教育の始まりとしての幼稚園教育（保育）について、小学校への接続を視野に入れながら検討します。 関連科目：幼児期教育の理論と実際、保育現場での発達支援と課題	教授 青井 倫子
学校臨床学 (幼児心理学)	乳幼児期から学童期前期までの発達の側面から、学びの支援を検討します。 関連科目：子どもの発達と学びの支援、保育研究における教材論	教授 深田 昭三
臨床心理学 (障害者心理学)	発達障害、高次脳機能障害、認知症等のアセスメントと治療について神経心理学的な観点から検討します。 関連授業科目：臨床心理学特論1・2、臨床心理実習1・2、臨床心理査定演習1、臨床心理基礎実習2	教授 山下 光
臨床心理学 (心理療法)	精神分析的アプローチに基づいた視点から、心理療法への適用や応用などを検討します。 関連授業科目：臨床心理面接特論1・2、臨床心理実習1・2、臨床心理査定演習2、臨床心理基礎実習1・2	准教授 信原 孝司
臨床心理学 (精神保健)	軽度発達障害児の知能テストや学習教材を開発します。 関連授業科目：心身医学特論、社会病理学特論、臨床心理査定演習1、臨床心理実習1・2、臨床心理基礎実習2	准教授 加藤 匡宏
臨床心理学 (ブリーフセラピー)	Solution-Focused Brief Therapy を用いた面接技法とスクールカウンセリング分野での連携手法について学びます。 関連授業科目：家族心理学特論、臨床心理査定演習1、臨床心理実習1・2	准教授 相模 健人

交通機関案内

- 伊予鉄道市内電車 ①②番（環状線） 赤十字病院前下車，北へ徒歩2分～3分
- ①番 〔松山市駅前—J R松山駅前—赤十字病院前—大街道—松山市駅前〕
- ②番 〔松山市駅前—大街道—赤十字病院前—J R松山駅前—松山市駅前〕
- 伊予鉄バス 東西線 愛媛大学前下車
- 〔J R松山駅前—本町6丁目—愛媛大学前—道後温泉駅前〕
- （注）電車，バスの運行時刻については，受験者各自が確認してください。

試験場案内



愛媛大学建物配置図（城北キャンパス）

